

密航時期、脱出ルート...



注目を集める その証言

昭和二十五年、治安当局の追及を逃がれ、中国に潜伏した元日本共産党幹部・伊藤律氏が二十三日、北京で生存していることが確認された。戦前、戦後を通じ左翼運動の指導に当たった同氏の突然の出現に、関係者は驚きの色を隠さない。だが、ソルゲ事件のスパイ説など暗い過去に加え、潜行の足取りなど同氏の周辺はいまなおベールに包まれたまま。関係者の証言を中心に同氏のナゾの部分にスポットを当てた。

「伊藤氏がスパイ容疑で査問されたいきさつは、当時私はモスクワにいたため直接知らない。ただ、ソルゲ事件で党員がいもつる式に検査されるきっかけとなったが、伊藤氏は特別高等警察(特高)にしては疑いがある。」

元日本共産党副委員長・袴田里見氏(五十二年除名処分)の証言だ。昭和十六年発覚した「ソルゲ事件」では三十三人が検査され、ソルゲと尾崎秀実氏が死刑、五人が獄中で死んだ。

岐阜県津市生まれ、秀才のつわがしが高く、一高に入學して間もなく共産青年同盟事務局長に。しかし、派手な活動もとて放校処分。その後同校に復帰され、ソルゲ事件当時も共産党再建準備運動に絡んで、特高の厳しい取り調べを受けた。この際ソルゲ事件グループの一人であるアメリカ共産党員北村トモの名前を漏らし、これが事件摘発のきっかけになった。だが、スパイ説を真っ向から否定する関係者もいる。戦争をはさんで伊藤氏とともに党活動に携わった労働運動研究所代表理事、長谷川浩氏(五十二年離党)も「伊藤氏は十四年秋にも逮捕されているが、私が逮捕されたのが十五年六月。伊藤氏が本当にスパイなら、私たちのことはすぐわかったはず。当時の治安局が半年以上も泳がせておくとは考えられない」とその根拠を挙げる。

そして「スパイ説は共産党が除名のためにつち上げた口実。彼氏は党内抗争の犠牲者」と擁護する。伊藤氏の取り調べに当たった元特高の宮下弘氏(五十二年除名)は自ら鼻に抜けるような利口な問題だ。

第二は日本共産党の恥部、暗部が「伊藤証言」でえぐり出される可能性があり、共産党にとっては致命的な事件になりかねない、という点だ。伊藤律氏は失脚当時、「宮本路線」の共産党から「スパイ分子」とされ、その私生活まで暴露された。伊藤氏が「悪の根源」とされた日本共産党の戦後史は再び洗い直される可能性がある。

袴田里見・元共産党副委員長の証言によると、伊藤氏は共産党史を書くに当たって、短期間で党の最高幹部までの上がったが、党に重大な損害を与えた人物だ。北京時代も特に野坂氏に取り入るなど要領がよく、いやな男だった。いまさら伊藤氏が出てきても、私は無関係だ。

「視力、聴力の衰えと歩行困難」という伊藤氏が、どう証言するかが注目される。

「堀つてきてもうなにもできないうちが、日本共産党にとどまらねばならぬ」ということとある。伊藤律氏(近代日本政治史)は、今後の影響をこう語っている。

伊藤律氏の生存確認

最後の人物、は生きていた。伊藤律氏の生存が二十三日、中国政府当局によって確認された。徳田球一・共産党書記長(当時)ら八幹部とともに地下に潜伏して以来三十年ぶりの生存確認だ。

地下潜伏後どのようなルートで中国に潜入したのか、その後の生活は「なぞ」に包まれた部分はいまなお多い。しかし、潜伏九幹部のうちの最後一人である同氏は日本共産党の裏面史の力キを握る人物でもあり、生存確認のニュースは関係者に大きな衝撃を与えている。同氏に詳しい人たちに聞いた。

を果たしていたのか証言して欲しい。なかでもソルゲ事件が一番知りたい。同事件摘発の端緒となったのは、伊藤氏が特高にソルゲ組織の一員の動きを供述したからだとはいわれている。彼は本当にソルゲ組織を売ったのか、売っていないのか。もし売ったのなら、故意なのか、それとも知らずに話したことが端緒となったのか。その

中日関係に
新たな一石

東京外語大教授中嶋嶺雄氏(国際関係論)の話、ひとししたらと思っていたのだが、事実でした。戦後史の大ニュースです。六月に私は中国へ行き、北京の日本大使館で特派員も知らない迎賓館に泊まったのですが、そこに中

が出てきた。伊藤氏も自分の弁明を聞いて欲しいという気持ちがある。

共産党史書き
換えの可能性

評論家いた、も氏の話、私は伊藤氏が党を除名になったとき、はたの党員だったが、びつくりしたことを覚えている。除名の理由が中国へ逃した時の状況やスパイ容疑で査問されたいきさつは、当時、私はモスクワにいたため、直接知らない。ただ、ソルゲ事件で党員がいもつる式に検査されたこと、伊藤氏は特別高等警察(特高)にしては疑いがある。私が統制委員長当時、問題にしようとしたが、徳田球一氏に阻まれ、北陸地方委員に左遷されて果たせなかつた。

伊藤氏はスパイでないと思いたい。伊藤氏の生存で、私が正しいか、ぜひはっきりさせてほしい。そういう点から言っても、生きていて本当によかつた。

除名前の伊藤氏は自ら鼻に抜けるような利口な男だった。党のリーダーとして組織力があり、政治力もあつた。さらに人間の魅力もあつた。右、左は関係な人を引きつける力を持っている人物だ。

驚く関係者たち

「ゾルゲ事件」証言が欲しい

評論家尾崎秀樹氏の話、伊藤律氏の生存説はこれまで五分五分で、死んだという確証もなかった。私自身は生きていた可能性があると信じていたので、伊藤氏の生存が確認されても衝撃はない。

彼が生きている以上ぜひ日本に帰って、戦前、戦中、戦後の共産党運動の中で彼がどのような役割

を果たしていたのか証言して欲しい。なかでもソルゲ事件が一番知りたい。同事件摘発の端緒となったのは、伊藤氏が特高にソルゲ組織の一員の動きを供述したからだとはいわれている。彼は本当にソルゲ組織を売ったのか、売っていないのか。もし売ったのなら、故意なのか、それとも知らずに話したことが端緒となったのか。その

国に十五、六年もいて重用されてきた日本人を知った。中国の革命外交やかなど、中国が重んじた。今も手厚く生活保障されていた。このことから伊藤律氏ももしかしたらと私はずっと思いつづけていた。

伊藤律氏生存が与える国際的、社会的影響は、第一は中国との共同通信のスクープによって日本共産党と中国との関係が、中国としては過去の古傷を洗い出さず、欲しくない、と願つたろう。中日関

が、伊藤氏とは終戦直後の二十一年ごろ知り合った。しかし、伊藤氏が中国へ逃した時の状況やスパイ容疑で査問されたいきさつは、当時、私はモスクワにいたため、直接知らない。ただ、ソルゲ事件で党員がいもつる式に検査されたこと、伊藤氏は特別高等警察(特高)にしては疑いがある。私が統制委員長当時、問題にしようとしたが、徳田球一氏に阻まれ、北陸地方委員に左遷されて果たせなかつた。

伊藤氏はスパイでないと思いたい。伊藤氏の生存で、私が正しいか、ぜひはっきりさせてほしい。そういう点から言っても、生きていて本当によかつた。

除名前の伊藤氏は自ら鼻に抜けるような利口な男だった。党のリーダーとして組織力があり、政治力もあつた。さらに人間の魅力もあつた。右、左は関係な人を引きつける力を持っている人物だ。